

将来像 1（重点 5）

大学連携の推進

令和３年６月３０日（水）
企画部企画政策課

大学連携の推進

概要

- 大学の知識や人材を活用し、質の高い行政運営を図る。

狙いとしている効果

- 各大学の専門的な知識の活用や人材の協力を得て、事業の効果を高める。

これまでの実施内容

- 大学に受託研究やワークショップ等への参加を依頼
- 各種計画策定等で大学教授等に委員を委嘱

取組予定・目標

- 各課に対して大学連携の事例紹介等を行い、連携による事業内容の充実を促し、行政運営の質を高める。

大学連携の推進

【豊川市防災センター啓発展示等に係る共同研究事業(令和元年度実施)】

豊川市防災センター: 令和2年4月1日供用開始



防災センターはの整備にあたっては、「災害対策本部機能の強化」、「災害対応体制の強化」、「地域防災力の強化」の3つを基本方針としていた。

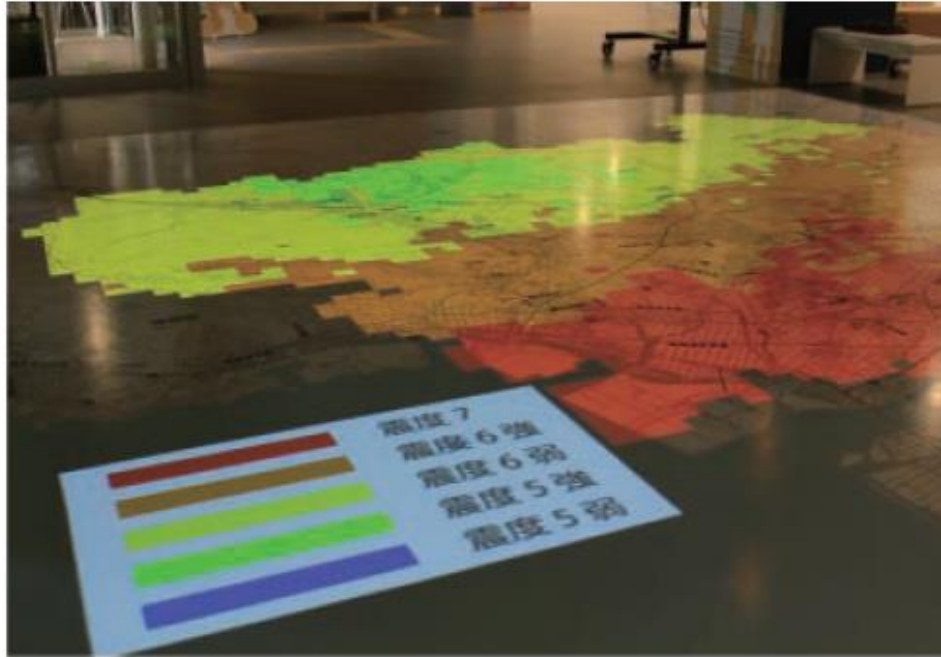


「地域防災力の強化」のためには、効果的な啓発展示を行う必要がある。

大学連携の推進

【豊川市防災センター啓発展示等に係る共同研究事業(令和元年度実施)】

防災センターに設置する啓発機器・展示品等の開発、作成、選定及び導入と、それらを活用した効果的な啓発手法について、大学との共同研究という形で連携し取り組んだもの



＜巨大地図プロジェクト＞

「震度」「液状化」「津波」など、ハザード情報が床面地図上に投影される。来館者の興味を誘い、受付からの誘導を促す。



＜VRによるドローン空撮映像体験＞

見慣れた街に直接ハザードマップを合成することで、ハザードマップの内容をより身近に感じることができる。

大学連携の推進

【豊川市防災センター啓発展示等に係る共同研究事業】

防災センターに設置する啓発機器・展示品等の開発、作成、選定及び導入と、それらを活用した効果的な啓発手法について、大学との共同研究という形で連携し取り組んだもの



<水災害たかさもののさし>

水災害の恐ろしさが実感できるもの。豊川市での津波最大値の表示、河川浸水深(などを防災センター柱を利用して実寸で表示する。



<家族の非常持ち出し袋>

実際に自分の家族に必要な非常持ち出し袋の中身を考えてもらう展示。入れた物の重さが体験できる。

大学連携の推進

【豊川市防災センター啓発展示等に係る共同研究事業】

取組の成果

見学者への展示物やその説明方法、防災センターの運営の仕方に関し、大学研究者の最新の知見を活かした提案があった。

豊川市の課題を、大学とともに考え、豊川市オリジナルの啓発展示物を作ることができた。

通常の民間事業者への委託業務に比べ費用を削減することができた。

大学受託研究生派遣事業に職員が参加することで、防災分野の知見を広めることができた。

大学連携の推進

【町内会アドバイザー派遣事業(令和2年度～)】

<町内会運営の課題>

- ・昔からの業務に追われて負担が大きい
 - ・仕事をしていて負担を感じる
- など



<事業概要>

これまで見直しができなかった町内会運営について、専門家や学生、若者ボランティアなどと町内が一緒になって課題を洗い出し解決方法を見出すための取組み

大学連携の推進

【町内会アドバイザー派遣事業(令和2年度～)】

令和2年度は事前勉強会とワークショップ形式の検討会を3回開催しました。



アドバイザーである名古屋市立大学・三浦哲司准教授による講義



市内の4団体(三上町内会、古宿連区、平尾町内会、蔵子二区町内会)が参加したワークショップ

大学連携の推進

【町内会アドバイザー派遣事業(令和2年度～)】

取組の成果

市内4団体がコミュニティ活動の見直し検討を進めることができた。

コミュニティ活動の見直しの方向性を得ることができた。

(例) 業務引継ぎのデータ化、ICT活用による連絡体制の効率化

会議等の集金の効率化、会議のオンライン化、組織の統合、外部人材の活用